

燃料研究棟汚染事故に係る対応（週報9/4～10）

概況

9/4～10に実施した、主な対応等は以下のとおりです。

- ・ 9/8に101号室（調製室、管理区域）で、廃棄物を取り出す際に廃棄物が床に落下し、作業員の保護衣などが汚染しました。これに伴い、燃料研究棟の現場復旧作業を始め大洗研究開発センター内全施設での現場作業について、安全確保に必須な作業以外全面停止しました。また、原因究明や被ばく評価は最終報告に向けて取りまとめを行っています。

現場復旧

- 108号室（事故発生場所）の現場復旧に向けた措置
 - ・ 天井面、グローブボックス、付帯設備等の汚染検査・除染作業は、前週に引き続き実施していました。しかしながら、9/8に汚染事象が発生したことを受け、108号室における現場作業は、安全確保に必須な作業以外全面停止しました。今後は、徹底した安全の確認を行った上で作業の再開を判断いたします（[別紙参照](#)）。
- ※ 作業内容の詳細は、
[-108号室の汚染検査・除染作業](#)
をご参照ください。

原因究明

- 貯蔵容器内収納物の分析作業
 - ・ 貯蔵容器から取り出した核燃料物質の粉末について、X線回折測定を終了し（9/5）、測定結果を現在取りまとめている最終報告に加えしました。

被ばく評価

- 被ばく評価
 - ・ 放射性物質の摂取に至った要因事象を調査するため、108号室内で採取したスミヤろ紙*1の走査電子顕微鏡（SEM）*2による観察結果について、最終報告に向けて取りまとめを行っています。

- ・ また、上記と同じ目的のため、作業者が装着していた半面マスクの汚染状況の測定結果について、最終報告に向けて取りまとめを行っています。

*1 スミヤろ紙;原子力施設等で放射性物質による汚染状況を確認するために、目的とする場所をふき取ることによって採取したものの放射エネルギーの測定を行う。この「ふき取り」に利用するろ紙をスミヤろ紙という。

*2 走査電子顕微鏡 (SEM) ; 電子線を試料に当てて表面を観察する顕微鏡であり、X 線検出器を取り付けて元素分析を行うこともできる (Scanning Electron Microscope)。

その他

- 9/4から量研放医研に入院していた作業員1名は、キレート剤による継続的な治療を予定どおりに終え、9/8に退院しました。
- 外部対応
 - ・ 文科省特命チーム会合において、これまでの作業の進捗状況についてご報告しました (9/7)。
 - ・ 原子力規制庁と定例面談等を行い、以下の事項について説明しました。
 - 前日の作業実績と当日の予定について (9/4~8)
- ※ 原子力規制庁との面談内容の詳細は、
 - [原子力規制庁への提出資料](#)をご参照ください。
- 次回の週報は、9月19日(火)に発行いたします。

以上